Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA　MONTHLY CONCERT BROCHURE

2024
MAY

No. 96
Sat. 11th May
Kawasaki Subscription Concert

No. 720
Sun. 12th May
Subscription Concert

No. 138
Fri. 17th May
Tokyo Opera City Series

5

TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

音楽監督	**ジョナサン・ノット**
桂冠指揮者	**秋山和慶**
	ユベール・スダーン
正指揮者	**原田慶太楼**
名誉客演指揮者	**大友直人**
永久名誉指揮者	**アルヴィド・ヤンソンス ◆**
	上田　仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター　大谷康子

第1コンサートマスター	小林壱成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻　順

会　　長	澤田秀雄	
理事長	岡崎哲也	
副理事長	平澤　創	
	依田　巽	
専務理事	廣岡克隆	
理　　事	阿部武彦	辻　　敏
	池辺晋一郎	永山　治
	伊藤美樹	夏野　剛
	大橋　博	南部靖之
	コシノジュンコ	福川伸次
	庄司　薫	藤原　洋
	菅谷貴子	増岡聡一郎
	竹中平蔵	森　京子
監　　事	磯村文靖	
	寺西基之	
評議員長 最高顧問	金山茂人	
評議員	梅沢一彦	中村紀子
	鴛海量明	星　久人
	片山泰輔	山添　茂
	加藤英輔	芳野まい
特別顧問	飯島延浩	
	草壁悟朗	
	福田紀彦	

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins
○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
小山あずさ
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins
◎清水泰明
◎服部亜矢子
◎坂井みどり
○加藤まな
○福留史紘
阿部真弓
河裾あずさ
鈴木浩司
竹田詩織
辻田薫り
塩谷しずか
渡辺裕子

Violas
◎青木篤子
◎武生直子
◎西村眞紀
○多井千洋
○山廣みほ
小西応興
鈴木まり奈
永井聖乃
新井瑞穂＊
金田滉司＊

Cellos
☆伊藤文嗣
◘笹沼　樹
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行●
樋口泰世
福﨑茉莉子

Double Basses
◘助川　龍
◎コーディ・ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邉淳子

Flutes
◎相澤政宏
◎竹山　愛

Flutes & Piccolos
高野成之
濱﨑麻里子

Oboes
◎荒　絵理子
浦脇健太
◎荒木良太＊

Oboe&English horn
最上峰行

Clarinets
◎エマニュエル・ヌヴー
◎吉野亜希菜
近藤千花子
小林利彰

Bassoons
◎福士マリ子
◎福井　蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns
◎上間善之
加藤智浩
溝根伸吾
白井有琳＊

Trumpets
◎澤田真人
野沢岳史●
松山　萌
◎ローリー ディラン＊

Trombones
◎大馬直人
◎鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone
藤井良太

Tuba
近藤陽一

Timpani& Percussions
◎清水　太
◎山村雄大
武山芳史
綱川淳美
新澤義美

Librarians
林　知也
加藤幸子

Stage Managers
西岡理佐
山本　聡

栄誉団員
井伊　準◆

楽団長
廣岡克隆

編成局シニア・ディレクター
藤原　真

パーソネル・マネージャー
謝名元　民

楽団委員
小西応興（議長）
福留史紘（書記）
清水泰明
多井千洋
北村一平
藤井良太

事務局長
辻　　敏

事務局
市川萌都
伊藤瑛海
榎　日向
小川博司
■尾木貴雄
桐原美砂
髙瀬　緑
竹内裕子
長久保宏太朗
山田道子
□梶川純子
三橋真琴＊

名誉団友
深江泰輔◆
三木晴雄◆

団　友
天野佳和
新井　汎
安藤史子
池田　肇
石川晴依世
今村和弘
岩澤淳子
上原正二
上原規照
上原未莉
内田彬雄
内田乃俐子
宇都　実
梅田　学
大隅雅人
大塚正昭
大埜展男
大和田浩明
大和田ルース
小川さえ子
荻野　昇
奥田昌史
音川健二
加護谷直美
笠原勝二
甲藤さち
加藤信吾
金澤　茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
篠崎　隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
芹澤英雄
曽根敦子
武田英昭
田中真輔
千村雅信
十亀正司
豊山　悟
中塚和良
中塚博則
中山　智
西依智子
西脇秀治
野村真澄
馬場隆弘
原田美保子
日野　奏
ベアンテ・ボーマン
前田健一郎
松﨑里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本　睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺　功
渡辺哲郎

☆ソロ首席奏者 ◎首席奏者 ◘客演首席奏者 ○フォアシュピーラー ●インスペクター
■本部長 □シニア・ディレクター ＊研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い Concert Manner Guide

チケットに記載された座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.

演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.

開演前に携帯電話、時計のアラーム音、電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしていても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.

周囲の視界を遮るような行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.

カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited, except for Curtain calls.

演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.

補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるためにきちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your devi ce is sui tably set before the performance begins.

開演後の入場を制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.

咳、くしゃみをする際はハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.

曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause until the actual end of the performance.

カーテンコールの撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリーズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください

◎SNS等に掲載する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください

5/11 SAT. 12 SUN.

川崎定期演奏会 第96回
2024年5月11日(土)14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.96
Sat. 11th. May 2024, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

第720回 定期演奏会
2024年5月12日(日) 14:00サントリーホール

Subscription Concert No.720
Sun. 12th. May 2024, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]	Jonathan NOTT, Conductor
髙橋絵理 [ソプラノ]	TAKAHASHI Eri, Soprano
ドロティア・ラング [メゾソプラノ]	Dorottya LÁNG, Mezzo-Soprano
ベンヤミン・ブルンス [テノール]	Benjamin BRUNS, Tenor
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]	Gleb NIKITIN, Concertmaster

武満徹:鳥は星形の庭に降りる(13')	TAKEMITSU,T.:A Flock Descends into the Pentagonal Garden (13')
ベルク:演奏会用アリア「ぶどう酒」(15')	A.BERG:Der Wein(concert aria) (15')
Ⅰ.ぶどう酒の魂	Ⅰ.Die Seele Des Weines
Ⅱ.愛する者たちのぶどう酒	Ⅱ.Der Wein Der Liebenden
Ⅲ.孤独な男のぶどう酒	Ⅲ.Der Wein Des Einsamen
休憩(20')	Intermission(20')
マーラー:大地の歌(63')	G.MAHLER:Das Lied von der Erde (63')
Ⅰ.酒興の歌、地上の苦しみについて	Ⅰ.Das Trinklied vom Jammer der Erde
Ⅱ.秋、孤独な男	Ⅱ.Der Einsame im Herbst
Ⅲ.若さについて	Ⅲ.Von der Jugend
Ⅳ.美しいものについて	Ⅳ.Von der Schönheit
Ⅴ.春に酔った者たち	Ⅴ.Der Trunkene im Frühling
Ⅵ.別れ	Ⅵ.Der Abschied

●主催／公益財団法人東京交響楽団
●助成／文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動) | 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション、公益財団法人朝日新聞文化財団
●後援／川崎市(5/11)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(5/11)、在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル
●協力／ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(5/11)

楽曲解説はP.06をご覧ください

5/11 SAT. 12 SUN.

©K.Miura

Jonathan NOTT

Conductor
ジョナサン・ノット
［指揮］

Music Director
音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンド管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞（オペラ・オーケストラ部門）」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》、《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music in all areas of music. As Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra, he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity. Together with the TSO, he won "BEST CONCERT 2023" by Ongaku-no-tomo and "Best 10" by Mainichi Classical Navi for the concert opera series of R. Strauss "Salome" and "Elektra" as well as the 2020 Music Pen Club Japan Award. Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE and OCTAVIA.

Soprano TAKAHASHI Eri
髙橋絵理 ［ソプラノ］

©TAKUMI JUN

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会および新国立劇場オペラ研修所修了。第6回静岡国際オペラコンクール第3位（1位なし）併せてオーディエンス賞、五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。イタリアにて研鑽を積む。二期会『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ファルスタッフ』アリーチェ、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ等出演。コンサートでもヴェルディ「レクイエム」、マーラー「復活」等で高い評価を得ている。2024年7月二期会『蝶々夫人』タイトルロールにて出演予定。二期会会員。

Eri Takahashi graduated from Kunitachi College of Music and its Graduate School. Subsequently she trained at the Nikikai Opera Studio, New National Theatre Opera Studio. She won third prizes at the 6th International Opera Competition of Shizuoka. She furthered her studies in Bologna with a scholarship from the Gotoh Memorial Foundation. Recently, She has appeared Micaëla in a nationwide joint production“Carmen”, Fiordiligi in Nissay Opera’s “Cosi fan tutte”, Alice in "Falstaff" and the Countess in “Le nozze di Figaro” in a Nikikai Opera. A member of the Nikikai

Mezzo-Soprano Dorottya LÁNG
ドロティア・ラング ［メゾソプラノ］

ブダペスト生まれ。ウィーン国立音楽大学で学び、ウィーン・フォルクスオーパーを経て、マンハイム国立劇場、ハンブルク州立歌劇場でアンサンブルを務めた。ライン・ドイツ・オペラ、ラトビア国立歌劇場、マルメ歌劇場等にも客演。ソリストとして、ウィーン楽友協会、ウィーン・コンツェルトハウス、ベルリン・フィルハーモニー等に出演。近年はブダペスト・ワーグナー・デイズに出演したほか、アダム・フィッシャー指揮でワーグナー《ヴェーゼンドンク歌曲集》、ハンガリー国立フィルでリスト《聖エリザベートの伝説》等が予定されている。

Dorottya Láng, born in Budapest, studied at the University of Music and Performing Arts in Vienna. She was an ensemble member at the Vienna Volksoper, followed by engagements at the Nationaltheater Mannheim and the Hamburg State Opera. Láng has performed as a guest artist at prestigious venues like the Deutsche Oper am Rhein, Latvian National Opera, Malmö Opera, Oslo Opera House, and RuhrTriennale. Her concert appearances include venues such as Vienna Musikverein, Vienna Konzerthaus, Philharmonie Berlin, Wigmore Hall in London, and Elbphilharmonie Hamburg. Recent performances include roles at Budapest Wagner Days (2022) and upcoming engagements feature Mahler‘s "Das Lied von der Erde" in Tokyo under Jonathan Nott, "Wesendonck Songs" with Adam Fischer in Vienna, and a European tour with the Hungarian National Philharmonics performing Liszt’s "The Legend of St. Elisabeth".

Tenor Benjamin BRUNS
ベンヤミン・ブルンス ［テノール］

ハノーファー生まれ。ハンブルク音楽演劇大学で学び、ブレーメン歌劇場でキャリアをスタート。ケルン市立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場を経て、ウィーン国立歌劇場でアンサンブルを務めた。オペラのみならず、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ボストン響など、世界の著名なオーケストラと共演。ブレーメン市立劇場からKurt-Hübner賞、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭からヤング・タレント賞を受賞。シューマンの「詩人の恋」、シューベルトの「冬の旅」の録音は、批評家たちから絶賛され、名誉ある賞にもノミネートされた。

Benjamin Bruns, born in Hannover, began his singing career in his hometown's boys' choir before training for four years with Prof. Peter Sefcik. He later studied under Renate Behle at the University of Music and Theatre Hamburg. Bruns launched his professional career at the Bremen Theater, progressing to the Cologne Opera, the Saxon State Opera Dresden, and ultimately the Vienna State Opera, where he was an ensemble member from 2010 to 2020. Apart from stage performances, he excels in oratorio and lieder singing, collaborating with esteemed orchestras worldwide, including the Berlin Philharmonic, Vienna Philharmonic, and Boston Symphony Orchestra. Bruns has earned accolades such as the Kurt-Hübner Prize from the Bremen Theater and the Young Talent Award from the Schleswig-Holstein Music Festival. His recordings of Schumann's "Dichterliebe" and Schubert's "Winterreise" garnered critical acclaim and prestigious award nominations.

5/11 SAT. 12 SUN.

武満徹（1930 ～ 1996）

鳥は星形の庭に降りる

第２次世界大戦後の我が国を代表する作曲家だった武満の楽曲のタイトルには、独特で印象的なものが多い。作曲家自身は、作品の内容を描写する意図はないと明言しているが、J・ジョイスあるいはE・ディッキンソンなどへの参照に加え、「水」「夢」など、彼の創作の鍵となる言葉、概念が含まれるものがあることは見逃せまい。

1997年の管弦楽曲《鳥は星形の庭に降りる》は、彼の創作史において様式上の一つの転換点となったとも評される重要作だが、ここにも、「星」「庭」といったキーワードが含まれている。なお、英題には「群れ」を意味する「A Flock」が用いられ、直接「鳥」を意味する言葉は見当たらない。

後頭部を星形に刈り込んだマルセル・デュシャンを撮ったマン・レイの写真に、武満はパリのポンピドー・センターにおける大規模なデュシャン回顧展で接した。一群の白い鳥が一羽の黒鳥を中心に５角形の庭に降りる夢を、彼はその後、見たという。作曲には、繰り返し夢を反芻して臨んだ。星の頂点を結んだ５角形に鳥の群れが舞い降りる様を描いたイラストが残されている。群れを率いる黒い鳥は、F#（嬰ヘ音）。12平均律のオクターヴの真ん中にあたるこの音は、作品全体の根幹を成すものともなる。それを中心に、C#（嬰ハ）―E♭（変ホ）―F#（嬰ヘ）―A♭（変イ）―B♭（変ロ）という5音音階、そして「5」という数が構成を担う。ピアノの黒鍵を並べたかたちになるこの音階は、しばしば東洋的、あるいは「非西洋」的とも形容される。細かい音色の変化までが想定されたオーボエの奏する「鳥の主題」は、後の作品にも用いられるところともなった。鳥たちは、弦楽を主体とする「庭」に舞い降りていく。冒頭のフレーズが回帰したのち、全曲はロ長調の長三和音の響きで閉じられる。

アメリカ滞在中、作曲はピアノのない環境で「理論的」に進められたという。その内容は、1984年に行われた講演に基づく『夢と数』（1987年、後に『武満徹著作集』に収録）に詳しい。

岡部真一郎 Text by OKABE Shinichiro

作曲：1977年

初演：1977年11月30日サンフランシスコ、エド・デ・ワールト指揮、サンフランシスコ交響楽団

編成：フルート3（ピッコロ持替3、アルトフルート持替1）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン持替1）、クラリネット3（小クラリネット持替1、バス・クラリネット持替1）、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、大太鼓、シンバル、チューブラーベル、マリンバ、ヴィブラフォン、カウベル、タムタム、ゴング、ハープ2、チェレスタ1、弦5部［指定有 12・10・8・6・6］

アルバン・ベルク（1885 ～ 1935）

演奏会用アリア「ぶどう酒」

1925年、プラハで開催された国際音楽祭で《ヴォツェックからの3つの断章》が演奏された際、アルバン・ベルクはアルマ・マーラーの紹介により、プラハに住む実業家ヘルベルト・フックスの家に招かれた。そこでベルクは、ヘルベルトから「信じられないほど素晴らしいワイン」を含む夕食といった手厚いもてなしを受けただけでなく、彼の妻ハンナとの情熱的な恋に落ちてしまう。この秘密裏の関係については、ベルクは1925年から26年にかけて作曲した《抒情組曲》において、2人のイニシャルを音に落とし込める形で暗示されている。

数年後の1929年春、ベルクはウィーンで活動していたソプラノ歌手ルツェナ・ヘルリンガーから、「現代の様式によるアリアもしくはカンタータ」の委嘱を受ける。当時、オペラ《ルル》の作曲に没頭していたこの作曲家にとって、これは自身のなかで長きにわたり温めてきた構想――ハンナへの愛、そしてプラハで味わったワインの悦び――を音楽にする絶好の機会であった。かくして、ソプラノとオーケストラのための演奏会用アリア《ぶどう酒》は同年7月23日に完成。初演は翌1930年6月4日、ヘルマン・シェルヒェン指揮、ヘルリンガーの独唱により、プロイセンのケーニヒスベルクで行われた。

作品のテクストに選ばれたのは、《抒情組曲》にも用いられたシャルル・ボードレールの詩集『悪の華』をシュテファン・ゲオルゲが翻訳したドイツ語版より、「ぶどう酒」の章の「ぶどう酒の魂」、「愛する者たちのぶどう酒」、「孤独な男のぶどう酒」の3篇の詩。十二音技法で書かれているものの、使用された音列の前半部分は二短調の音階を構成していることから、調性的な響きもほのかに聞かれよう。ジャジーなタンゴが挿入されつつもゆったりとした両端部に挟まれた中間部は、ベルクの他の後期作品にもしばしば見られるのと同様、鏡像的なシンメトリー構造を持つ。「愛する者たちのワイン」の詩が用いられた中間部の中央、回文構造の反転点となるフェルマータで引き伸ばされた小節には、ハンナへの密かな愛が、彼女のイニシャルであるロ長調（H）とヘ長調（F）の響きに秘められている。

内藤眞帆 Text by NAITO Maho

作曲：1929年

初演：1930年6月4日プロイセン、ヘルマン・シェルヒェン指揮、ヘルリンガー独唱

編成：ソプラノ独唱、フルート2（ピッコロ持替2）、オーボエ2（イングリッシュホルン持替1）、クラリネット2、バスクラリネット1、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・テューバ1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、タンバリン、シンバル、タムタム、鐘、トライアングル、グロッケンシュピール、ピアノ、ハープ、弦5部

5/11 SAT. 12 SUN.

アルバン・ベルク：《ぶどう酒》
Alban Berg: “Der Wein”

［歌詞対訳］
訳：三ヶ尻 正

ドイツ語テキスト：シュテファン・ゲオルゲ／シャルル＝ピエール・ボードレールの詩をもとに
Deutsche Texte von Stefan George nach Gedichte von Charles-Pierre Baudelaire

DIE SEELE DES WEINES

Des Weines Geist begann im Faß zu singen:
“Mensch, teurer Ausgestoßener, dir soll
Durch meinen engen Kerker durch erklingen
Ein Lied von Licht und Bruderliebe voll!

Ich weiß: am sengend heißen Bergeshange
Bei Schweiß und Mühe nur gedeih’ ich recht.
Da meine Seele ich nur so empfange;
Doch bin ich niemals undankbar und schlecht.

Und dies bereitet mir die größte Labe:
Wenn eines Arbeitmatten Mund mich hält;
Sein heißer Schlund wird mir zum kühlen Grabe,
Das mehr als kalte Keller mir gefällt.

Hörst du den Sonntagssang aus frohem Schwarme?
Nun kehrt die Hoffnung prickelnd in mich ein:
Du stülpst die Ärmel, stützest beide Arme,
Du wirst mich preisen und zufrieden sein.

Ich mache deines Weibes Augen heiter,
Und deinem Sohne leih’ ich frische Kraft;
Ich bin für diesen zarten Lebensstreiter
Das Öl, das Fechtern die Gewandtheit schafft.

Und du erhältst von diesem Pflanzenseime
Den Gott, der ewige Sämann, niedergießt,
Damit in deiner Brust die Dichtkunst keime,
Die wie ein seltner Baum zum Himmel sprießt.”

ぶどう酒の魂

ぶどう酒の精が樽の中で歌い始めた：
『人よ、親愛なる、追放された者よ、
私の狭い牢獄から君に
光と兄弟愛に満ちた歌を響かせよう。

私は知っている：私がよく育つのは
焦げるほど暑い山の斜面での汗と労苦の結果だ。
私が私の魂を得るにはそこでそうするしかない。
だが私は恩知らずにも悪者にもなりはしない。

私にとって最大の慰めはこれだ。すなわち
仕事に疲れた口が私を含めば
その熱いノドが私にとって涼しい墓となること。
冷たい貯蔵庫より私はずっと好きだ。

楽しげな群れから日曜の歌声が聞こえるか？
すると私の中に希望が泡となって沸き立つ。
君は袖をまくって両肘をついて
私のことを讃えてご満悦となるだろう。

私は君の奥さんの目を明るくし
君の息子に新たな力を授ける。
このかよわい人生の競技者にとって
選手に力を与える香油となる。

そして永遠に種を蒔き続ける神が絞り出す、
この植物からできた蜜を君は飲む。
そして君の胸に詩の力が芽生え、それが
類いまれな木のように天まで伸びるだろう。』

DER WEIN DER LIEBENDEN

Prächtig ist heute die Weite,
(Stränge und Sporen beiseite!)
Reiten wir auf dem Wein
In den Feeenhimmel hinein!

Engel für ewige Dauer
Leidend im Fieberschauer,
Durch des morgens blauen Krystall
Fort in das leuchtende All!

Wir lehnen uns weich auf den Flügel
Des Windes, der eilt ohne Zügel.
Beide voll gleicher Lust

Laß Schwester uns Brust an Brust
Fliehn ohne Rast und Stand
In meiner Träume Land!

愛する者たちのぶどう酒

今日は見渡す限り輝かしい。
（手綱も拍車もなしで！）
私たちはぶどう酒に乗って
妖精たちの天へと昇って行こう！

降り注ぐ熱の雨に
永遠にうなされた天使たちのように
この朝の青い水晶の空を通り抜けて
光り輝く万物の世界へ入って行こう！

私たちは、二人とも等しく喜びに満ちて
手綱に縛られることもなく急ぐ、風の翼の上に
柔らかに身を横たえる。

妹よ、胸と胸を合わせて
休むことも立ち止まることもなく
私の夢の国へと逃がれて行こう！

DER WEIN DES EINSAMEN

Der sonderbare Blick der leichten Frauen,
Der auf uns gleitet wie das weiße Licht
Des Mondes auf bewegter Wasserschicht
Will er im Bade seine Schönheit schauen.

Der letzte Taler auf dem Spielertisch,
Ein frecher Kuß der hagern Adeline,
Erschlaffenden Gesang der Violine,
Der wie der Menschheit fernes Qualgezisch:

Mehr als dies alles schätz' ich, tiefe Flasche,
Den starken Balsam, den ich aus dir nasche
Und der des frommen Dichters Müdheit bannt.

Du gibst ihm Hoffnung, Liebe, Jugendkraft
Und Stolz - dies Erbteil aller Bettlerschaft,
Der uns zu Helden macht und gottverwandt.

孤独な男のぶどう酒

軽い女たちのあやしげなまなざし。
まるで月が、波打つ水面に入水して
自分の美しさを見せびらかそうとしているときの
白い明りのように私たちの上を滑って行くまなざし。

ギャンブルのテーブルに残った最後の1ターラー＊ [*金銭の単位]
痩せたアデリーネの唐突なキス、
遠くに聞こえる人類の苦悩の息漏れのような
ヴァイオリンの弛みきった歌。

深淵なるボトルよ、こうしたものすべてよりも、
私が君から味わい、詩人の憂いを晴らして喜ばせる、
その力強い香油を私は大切に思う。

君は詩人に希望を、愛を、若き力を、そして誇りを授ける。
その誇り 、あらゆる貧しさの遺産であるこの誇りが
私たちを英雄にもし、神と結び付けてもくれるのだ。

【許可のないコピー・転載は法律によって禁じられています】

5/11 SAT. 12 SUN.

グスタフ・マーラー（1860 ～ 1911）

大地の歌

1908年の夏、グスタフ・マーラーは休暇を過ごしていた北イタリアはドロミテ、トブラッハの作曲小屋にて《大地の歌》を作曲した。作曲家が指揮者のブルーノ・ワルターに宛てたところによると、それまでに作曲したもののうち「もっとも個人的な」作品だというこの作品だが、マーラーは惜しくも実演を耳にすることはなかった。初演はマーラーの死後、1911年11月20日にワルター指揮のもとミュンヘンにて行われ、そこにはアルバン・ベルクやアントン・ウェーベルンといった面々が駆けつけた。

全6楽章からなる《大地の歌》は、交響曲とも歌曲とも捉えられる作品である。簡潔かつ見通しの良い歌曲的な中間楽章に対し、重量感があり歌唱的な両端楽章。楽章間の主題・動機上の関係は交響曲さながらであり、自筆譜にも「アルトとテノール、そして大オーケストラのための交響曲」と書かれている。作品のテクストには、古代中国の抒情詩をハンス・ベトゲがドイツ語に翻案した詩集『中国の笛』から、回顧、郷愁、告別といった精神的な内容を中心に据えた7つの詩が選ばれた。第1楽章では「生も暗ければ、死も暗い」という李白の言葉のもと、自然と生命への愛、あらゆる物事の空しさ、人間の無常さが歌われる。沈鬱で憂愁に満ち溢れた秋の歌である第2楽章と対照を成すのは、生は夢であり、酔えるものは酒に忘却を求めるという内容の第5楽章。第3、第4楽章はどちらも牧歌的な雰囲気で、仮象の青春や美が歌われる。およそ30分に及ぶ第6楽章は冒頭楽章と対を成し、愛おしき大地は春にいたるところで花を咲かせ、再び新緑に染まる様子が音に乗せられる。終楽章末尾では次第に響きが消えゆく中、アルトによって7回「永遠にewig」という言葉が歌われ―― 7という反復回数は意味深い――、マーラーにとって「永遠」という観点が重要であったことが示唆される。

マーラーの死生観が垣間見えるこの作品が、動乱の時代の波に飲まれることになる次世代の作曲家たちに強い印象を残したのも不思議ではない。初演の後、ウェーベルンはベルク宛の書簡において、次のようにしたためている。「信じられないほど美しい。まるで人生の、いや、生きてきた者の、死にゆく者の魂の軌跡を走馬灯のように過ぎ去っていくかのようだ」と。

内藤眞帆 Text by NAITO Maho

作曲：1908年

初演：1911年11月20日ミュンヘン、ワルター指揮

編成：メゾソプラノ独唱、テノール独唱、ピッコロ、フルート3（ピッコロ持替 1）、オーボエ 3（イングリッシュホルン持替1）、小クラリネット1、クラリネット3、バスクラリネット1、ファゴット3（コントラファゴット持替1）、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・テューバ1、ティンパニ、バスドラム、タンブリン、シンバル、トライアングル、銅鑼、グロッケンシュピール、ハープ 2、マンドリン、チェレスタ、弦5部

マーラー／交響曲《大地の歌》
Gustav Mahler／“Das Lied von der Erde”

［歌詞対訳］

訳：三ヶ尻 正

1. Das Trinklied vom Jammer der Erde

Li-Tai-Po (701-762)

Schon winkt der Wein im gold'nen Pokale,
doch trinkt noch nicht, erst sing' ich euch ein Lied!
Das Lied vom Kummer
soll auflachend in die Seele euch klingen.
Wenn der Kummer naht,
liegen wüst die Gärten der Seele,
welkt hin und stirbt die Freude, der Gesang.
Dunkel ist das Leben, ist der Tod.

Herr dieses Hauses!
Dein Keller birgt die Fülle des goldenen Weins!
Hier, diese Laute nenn' ich mein!
Die Laute schlagen und die Gläser leeren,
das sind die Dinge, die zusammen passen.
Ein voller Becher Weins zur rechten Zeit
ist mehr wert als alle Reiche dieser Erde!
Dunkel ist das Leben, ist der Tod.

Das Firmament blaut ewig und die Erde
wird lange fest steh'n und aufblüh'n im Lenz.
Du aber, Mensch, wie lang lebst denn du?
nicht hundert Jahre darfst du dich ergötzen
an all dem morschen Tande dieser Erde!

Seht dort hinab!
Im Mondschein auf den Gräbern
hockt eine wildgespenstische Gestalt.
Ein Aff' ist' s! Hört ihr, wie sein Heulen
hinausgellt in den süßen Duft des Lebens!
Jetzt nehmt den Wein!
Jetzt ist es Zeit, Genossen!
Leert eure goldnen Becher zu Grund!
Dunkel ist das Leben, ist der Tod!

1. 酒興の歌、地上の苦しみについて

李太白 (701-762)

酒はもう金の盃の中から合図を送っているが、
飲むのはまだだ。まず私が君たちに一曲歌おう。
苦しみの歌を。それは君たちの心には、
笑っているように聞こえるかもしれないが、
実際に苦悩が近づいたときには、
魂の庭は荒涼と横たわり、
歓喜はしぼみ、死に絶える。そして歌も。
生とは暗いものなのだ。そして死も。

この家のご主人よ！ あなたの蔵には
金色に輝く酒がたくさん貯めてありますね！
さあ、私はこの琵琶を自分のものと呼ぼう！
琵琶を打ち鳴らし、盃を空ける、
それはとてもうまい組み合わせなのだ。
しかるべき時に、なみなみと注がれた酒の盃、
それは地上のどんな富よりも価値がある。
生とは暗いものなのだ。そして死も。

天は永遠に青く、大地はずっと堅固で、
春には花が咲き誇る。
だが君たち人はどれだけ生きられるというのだ？
百年の間でさえ、地上のもろくも取るに足らない
諸事を楽しめることはないだろう。

見おろすがいい！
墓の上、月の光の中に
野生の幽霊のようにしゃがんでいる影を。
あれは猿だ！ 聞け、その猿の遠吠えが、いかに
生の甘い香りの中へと響き渡っていくかを！
さあ今こそ酒を手にとれ！
同志よ、今こそその時だ！
君たちの黄金の盃を底まで空けるがいい！
生とは暗いものなのだ。そして死も。

5/11 SAT. 12 SUN.

2. Der Einsame im Herbst

Tchang-Tsi ? (765? - 830?)

Herbstnebel wallen bläulich überm See;
vom Reif bezogen stehen alle Gräser;
man meint, ein Künstler habe Staub vom Jade
über die feinen Blüten ausgestreut.

Der süße Duft der Blumen ist verflogen;
ein kalter Wind beugt ihre Stengel nieder.
Bald werden die verwelkten, gold'nen Blätter
der Lotosblüten auf dem Wasser zieh' n.

Mein Herz ist müde.
Meine kleine Lampe erlosch mit Knistern,
es gemahnt mich an den Schlaf.
Ich komm' zu dir, traute Ruhestätte!
Ja, gib mir Ruh, ich hab' Erquickung not!

Ich weine viel in meinen Einsamkeiten.
Der Herbst in meinem Herzen währt zu lange.
Sonne der Liebe, willst du nie mehr scheinen,
um meine bittern Tränen mild aufzutrocknen?

2.秋、孤独な男

銭起 (765? - 830?)

秋の霧が青みを帯びて湖の上に湧いている。
草はみな霜に引っ張られて立っている。
誰か工匠が美しい花々の上に、翡翠(ひすい)の粉から
作り出したのではないかと思うほどだ。

花の甘い香りは消え去って行った。
冷たい風がその茎を曲げてしまう。
やがて蓮の花は黄金色となり、
枯れて水の上に落ちていく。

私の心は疲れている。
私の小さな明かりがパチパチと音を立てて消えた。
それは私に眠りを想い起こさせる。
いとしい憩いの地よ、私はお前のもとに行く。
休みを授けてくれ。私を元気づけるものもないのだ。

私は孤独の中でひどく泣く。
わが心の秋はあまりに長すぎた。
愛の太陽よ、君はもはや輝くことはないのか?
私の苦い涙を乾かしてくれることはないのか?

3. Von der Jugend

Li-Tai-Po (701-762)

Mitten in dem kleinen Teiche
steht ein Pavillon aus grünem
und aus weißem Porzellan.

Wie der Rücken eines Tigers
wölbt die Brücke sich aus Jade
zu dem Pavillon hinüber.

In dem Häuschen sitzen Freunde,
schön gekleidet, trinken, plaudern,
manche schreiben Verse nieder.

Ihre seidnen Ärmel gleiten rückwärts,
ihre seidnen Mützen
hocken lustig tief im Nacken.

Auf des kleinen Teiches stiller Wasserfläche
zeigt sich alles wunderlich
im Spiegelbilde.

3.若さについて

李太白 (701-762)

小さな池の中に
青磁と白磁でできた
あずまやが立っている。

虎の背中が反りあがるように
翡翠でできた橋が
そのあずまやに向けてかかっている。

その小さな建物の中には友人たちが
美しい服を着て、呑み、語りあい、
何人もが詩歌を書きとめている。

彼らの絹の袖は後ろに引かれる。
彼らの絹の帽子は首もとまで
心地よさそうに下りている。

小さな池の静かな水面(みなも)には
おもしろいことに
すべてが鏡のように映っている。

Alles auf dem Kopfe stehend
in dem Pavillon
aus grünem und aus weißem Porzellan;

wie ein Halbmond scheint die Brücke,
umgekehrt der Bogen. Freunde,
schön gekleidet, trinken, plaudern.

何もかもが頭を下にして立っている。
青磁と白磁でできた
あずまやの中で。

橋は半月のように掛かっていて、
裏返しの弓のように見える。友人たちが
美しい服を着て、呑み、語りあっている。

4. Von der Schönheit

Li-Tai-Po (701-762)

Junge Mädchen pflücken Blumen,
pflücken Lotosblumen an dem Uferrande.
Zwischen Büschen und Blättern sitzen sie,
sammeln Blüten in den Schoß
und rufen sich einander Neckereien zu.

Gold' ne Sonne webt um die Gestalten,
spiegelt sie im blanken Wasser wider.
Sonne spiegelt ihre schlanken Glieder,
ihre süßen Augen wider,
und der Zephyr hebt mit Schmeichelkosen
das Gewebe ihrer Ärmel auf,
führt den Zauber ihrer Wohlgerüche durch die Luft.

O sieh, was tummeln sich für schöne Knaben
dort an dem Uferrand auf mut'gen Rossen,
weithin glänzend wie die Sonnenstrahlen;
schon zwischen dem Geäst der grünen Weiden
trabt das jungfrische Volk einher!

Das Roß des einen wiehert fröhlich auf,
und scheut, und saust dahin,
über Blumen, Gräser wanken hin die Hufe,
sie zerstampfen jäh im Sturm
die hingesunknen Blüten,
hei! wie flattern im Taumel seine Mähnen,
dampfen heiß die Nüstern!

Gold' ne Sonne webt um die Gestalten,
spiegelt sie im blanken Wasser wider.
Und die schönste von den Jungfrau'n sendet
lange Blicke ihm der Sehnsucht nach.
Ihre stolze Haltung ist nur Verstellung.
In dem Funkeln ihrer großen Augen,
in dem Dunkel ihres heißen Blicks schwingt
klagend noch die Erregung ihres Herzens nach.

4. 美しいものについて

李太白 (701-762)

若い娘たちが花を摘んでいる。
水辺で蓮の花を摘んでいる。
茂みと葉の間にすわり、
花をひざの上に集めて、
お互いにふざけた声を上げながら。

金色の太陽が、彼女たちの姿のまわりでたゆたい、
輝く水面に自分の姿を映す。
太陽は自分のすらりとした手足や
甘いまなざしも水面に映す。
そして西風はおだてるような愛撫で
彼女たちの袖の布を持ち上げ、その
かぐわしい香りの魔法を空気の中に行きわたらせる。

おお見よ、美しい若者たちが
太陽の光のように遠くへと輝きを放ちながら、
元気な馬に乗って浜辺で走り回っているのを。
緑の柳の葉のすきまを抜けて、もうこちらに
若くてみずみずしい少年たちが駆けてくる。

その中の一人の馬が喜ばしいいななき声を上げ、
まずはしりごみし、今度はうなり声をあげ、
その蹄(ひづめ)は花々の上、草原の上を歩き回り、
突然しぼんだ花の上を
嵐のように踏んで行く。
ああ！何というさまだろう！少年の馬がよろめき、
鼻の孔から熱い息を吹き出すのは！

金色の太陽が、若者たちの姿のまわりでたゆたい、
輝く水面に彼らの姿を映す。
そして娘たちの中で一番美しい子が
彼に憧れの長い視線を投げかける。
彼女の誇り高い態度は見せかけにすぎず、
彼女の大きな目の輝きの中には、
彼女の熱い視線の闇の中には、まだ彼女の心に
沸き立つ想いが嘆きを帯びてたゆたっているのだ。

5/11 SAT. 12 SUN.

5. Der Trunkene im Frühling

Li-Tai-Po (701-762)

Wenn nur ein Traum das Leben ist,
warum denn Müh' und Plag'?
Ich trinke, bis ich nicht mehr kann,
den ganzen lieben Tag!

Und wenn ich nicht mehr trinken kann,
Weil Kehl' und Seele voll,
so tauml' ich bis zu meiner Tür
und schlafe wundervoll!

Was hör' ich beim Erwachen?
Horch! Ein Vogel singt im Baum.
Ich frag' ihn, ob schon Frühling sei,
mir ist als wie im Traum.

Der Vogel zwitschert: Ja!
Der Lenz ist da, sei kommen über Nacht!
Aus tiefstem Schauen lauscht' ich auf,
der Vogel singt und lacht!

Ich fülle mir den Becher neu
und leer' ihn bis zum Grund und singe,
bis der Mond erglänzt am schwarzen Firmament!

Und wenn ich nicht mehr singen kann,
so schlaf' ich wieder ein,
Was geht mich denn der Frühling an!?
Laßt mich betrunken sein!

5. 春に酔った者たち

李太白 (701-762)

もし人生が単なる夢にすぎないのだとしたら、
どうして苦しんだり悩んだりするのだろう？
私は酒を呑む。もうこれ以上呑めなくなるまで、
ずっとこのうるわしい日の間じゅう。

そしてノドも心も一杯になって
それ以上呑めなくなったときには
私は自分の戸口までよろめいて帰り、
存分に眠ろう！

目覚めたときには何が聞こえるだろう？
聞け！ 木では鳥が歌っている。
もう春が来たのか彼に訊いてみよう、
私には夢の中にいるように聞こえるのだが。

鳥はさえずる：「そうだ！春はもう来ている。
夜中に来ていたのだ！」
私は深い思いの底から聞き耳を立てる。
鳥はさえずり、笑っている！

私はあらためて盃を一杯にする。
そしてそれを底まで空けて
月が漆黒の天に光りだすまで歌おう！

そしてもはやこれ以上歌えなくなったら、
ふたたび眠りに就く。
春が私と何の関係があるというのだ!?
私を酔ったままにしておいてくれ！

6. Der Abschied

**Mong-Kao-Yen(689-740) &
Wang-Wei(701-761)**

Die Sonne scheidet hinter dem Gebirge.
In alle Täler steigt der Abend nieder
mit seinen Schatten, die voll Kühlung sind.

O sieh! wie eine Silberbarke schwebt der Mond
am blauen Himmelssee herauf.
Ich spüre eines feinen Windes Weh'n
hinter den dunklen Fichten!

6. 別れ

**猛浩然(689-740) および
王維(701-761)**

太陽が山々の後ろへと去ってゆく。
谷々の中へは夕闇が
涼気に満ちた影とともに降りてゆく。

おお見よ！ 月がまるで銀の小舟のように
天の青い湖の水面で揺れているのを。
暗い松の林の奥でかすかな風が吹いているのが
私には感じられる。

Der Bach singt voller Wohllaut durch das Dunkel.
Die Blumen blassen im Dämmerschein.
Die Erde atmet voll von Ruh' und Schlaf.
Alle Sehnsucht will nun träumen,
die müden Menschen geh'n heimwärts,
um im Schlaf vergess'nes Glück
und Jugend neu zu lernen!
Die Vögel hocken still in ihren Zweigen.
Die Welt schläft ein!

小川は心地よい響きで歌っている、暗闇の中で。
夕陽の中で花々の色が薄れてゆく。
大地は安息と眠りの息づかいで呼吸している。
いまやあらゆる憧れが夢みている。
疲れた人々は家へと向かう、
忘れてしまった幸運や
若さを思い出すために！
鳥たちは自分の枝で静かにうずくまる。
世界が眠りについてゆく！

Es wehet kühl im Schatten meiner Fichten.
Ich stehe hier und harre meines Freundes;
ich harre sein zum letzten Lebewohl.

私の松林の木蔭では涼しい風が吹き、
私はここで友を待っている。
彼との最後の別れを待っているのだ。

Ich sehne mich, o Freund, an deiner Seite
die Schönheit dieses Abends zu genießen.
Wo bleibst du?
Du läßt mich lang allein!

おお友よ、私は君のそばで
この夕方の美しさを味わいたいと願っている。
君はどこにいるのだ？
君は私を長い間一人にしていた！

Ich wandle auf und nieder
mit meiner Laute auf Wegen,
die vom weichen Grase schwellen.
O Schönheit! o ewigen Liebens-
Lebens - trunk'ne Welt!

私はあちらへこちらへと歩く、
琵琶を持って、
やわらかな草でおおわれた道の上を。
おお、美しきものよ！
おお永遠の愛と生に酔いしれた世界よ！

Er stieg vom Pferd und reichte
ihm den Trunk des Abschieds dar.
Er fragte ihn, wohin er führe
und auch warum es müßte sein.
Er sprach, seine Stimme war umflort:
Du, mein Freund, mir war auf dieser Welt
das Glück nicht hold!

友は馬から降りて
別れの酒を彼に差し出す。
彼は友に訊く：どこに行くのか、そして
なぜそうせねばならないのか、と。
友はベールのかかった声で言う：
わが友よ、この世で私は
幸運に恵まれなかった！

Wohin ich geh'?
Ich geh', ich wand're in die Berge.
Ich suche Ruhe für mein einsam Herz.

私がどこに行くのか？
私はここを去り、山でさすらおうと思う。
私は自分の孤独な心の平安を探したい。

Ich wandle nach der Heimat, meiner Stätte!
Ich werde niemals in die Ferne schweifen.
Still ist mein Herz und harret seiner Stunde!

私はゆっくりと故郷へ向かう、私の町へ。
これからは遠くまでさまようことはないだろう。
私の心は静かで、きたるべき時を待っている！

Die liebe Erde allüberall
blüht auf im Lenz und grünt aufs neu!
allüberall und ewig blauen licht die Fernen,
ewig... ewig...

この愛しい大地は、春になれば
いたるところで花が咲き、新たな緑色に染まってゆく。
いたるところで永遠に、彼方から青い光がさしてくる。
永遠に、永遠に. . . 。

【許可のないコピー・転載は法律によって禁じられています】

5/17 FRI.

東京オペラシティシリーズ 第138回

2024年5月17日(金)19:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.138

Fri. 17th. May 2024, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
青木篤子 [ヴィオラ]*
サオ・スレーズ・ラリヴィエール [ヴィオラ]**
小林壱成 [コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor
AOKI Atsuko, Viola*
Sào Soulez LARIVIÈRE, Viola**
KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ベルリオーズ:交響曲
「イタリアのハロルド」op.16*(44')

Ⅰ.山にいるハロルド/
憂愁、幸福と歓喜の場面
Ⅱ.夕べの祈りを歌う巡礼の行進
Ⅲ.アブルッチの山人が、その愛人に寄せるセレナード
Ⅳ.山賊の饗宴、先立つ場面の追想

H.BERLIOZ :
Harold in Italy op.16*(44')

Ⅰ.Harold in the Mountains.
Scenes of Melancholy, Happiness and Joy
Ⅱ.March of the Pilgrims Singing the Evening Prayer
Ⅲ.Serenade of an Abruzzi Mountain-Dweller to his Mistress
Ⅳ.Orgy of Brigands. Memories of Scenes Past

休憩(20')

Intermission(20')

酒井健治:ヴィオラ協奏曲
「ヒストリア」(14')**

SAKAI,K. : Viola Concerto
"Historia"**(14')

イベール:交響組曲「寄港地」(15')

Ⅰ.ローマ — パレルモ
Ⅱ.チュニス — ネフタ
Ⅲ.バレンシア

J.IBERT : Escales(15')

Ⅰ.Rome - Palermo
Ⅱ.Tunis - Nefta
Ⅲ.Valencia

●主催/公益財団法人東京交響楽団
●助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
●後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

ジョナサン・ノットのプロフィールはP.4をご覧ください
楽曲解説はP.18をご覧ください

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

AOKI Atsuko
Viola
青木篤子 ［ヴィオラ］首席ヴィオラ奏者

桐朋学園大学、洗足学園音楽大学ソリストコースにて学ぶ。ヴァイオリンを藤井たみ子、東儀幸、原田幸一郎の各氏に、ヴィオラを岡田伸夫氏に師事。第15回宝塚ベガ音楽コンクール、第２回名古屋国際音楽コンクール、第２回東京音楽コンクールにて、それぞれ第１位を受賞。倉敷音楽祭、ヴィオラスペース、サイトウキネンフェスティバル、東京のオペラの森等に出演。これまでにソリストとして東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団と共演している他、2012年にはオペラシティ主催リサイタルシリーズ「B→C」に出演。またヴェーラ弦楽四重奏団メンバーとして、室内楽の分野でも幅広く活動している。2008年より東京交響楽団首席ヴィオラ奏者を務める。

Violist Atsuko Aoki began her musical studies on the violin. She studied with Tamiko Fujii, Sachi Tougi, and Koichiro Harada. After switching to the viola, she studied with Nobuo Okada. She attended the Toho Collage of Music and Senzoku Gakuen Collage of Music. She received 1st prize at the 15th Annual Takarazuka Vega Music Competition, 2nd Annual Nagoya International Music Competition, and 2nd Annual Tokyo Music Competition. She has performed with Viola Space and with the Saito Kinen Festival Orchestra. In September 2008, she became the Principal Violist of the Tokyo Symphony Orchestra. She is also a member of the Vela Strings Quartet.

Sào Soulez LARIVIÈRE
Viola
サオ・スレーズ・ラリヴィエール
［ヴィオラ］

多才な演奏と独自のプログラミングで聴衆を魅了し、そのキャリアを確実なものにしている。プラハの春音楽祭コンクール第1位（2023）第5回東京国際ヴィオラコンクール第3位（2022）、オスカル・ネドバル国際ヴィオラコンクール第2位（2020）を受賞。また、2023年の国際クラシック音楽賞（ICMA）の「ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」賞を受賞、さらに、ECHO（European Concert Hall Organisation）の「ライジングスター」に選出され、2024/25シーズンにはヨーロッパの主要コンサートホールで演奏することが約束されている。ハンス・アイスラー音楽大学でタベア・ツィンマーマンに師事、音楽学士号を取得。

2022年よりクロンベルク アカデミーで音楽修士号取得を目指す。2023年秋より、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学ヴィオラ科の教授として後進の指導にあたっている。

Already a top prizewinner of several international competitions, including the Tokyo Viola Competition '22, Oskar Nedbal Competiton '20 and the 2023 ICMA 'Young Artist of the Year' Award. He has been nominated as a European Concert Hall Organisation (ECHO) 'Rising Star', which will see him perform in Europe's most prominent concert halls in the 2024/25 season. He currently resides in Berlin, where he obtained a Bachelor of Music degree with Tabea Zimmermann at the Hochschule für Musik 'Hanns Eisler'. From autumn 2022, he will be pursuing a Master of Music degree at the Kronberg Academy. He is a professor of viola at the Mozarteum University in Salzburg from Autumn 2023.

5/17 FRI.

エクトール・ベルリオーズ（1803〜1869）

交響曲「イタリアのハロルド」op.16

ベルリオーズの「イタリアのハロルド」を、現代のジャンル感覚で「ヴィオラ独奏つき交響曲」と分類してしまっては、この大傑作の美点を聴き逃してしまう。ベルリオーズは文学的才能にも恵まれ、劇や詩や、物語の構造を中心に据えて作曲する音楽家であった。「イタリアのハロルド」は、彼がベートーヴェンの9つの交響曲を徹底的に研究し、その型や慣用的な書法を習得して反映させている点、そして前後に作曲された《幻想交響曲》（1830）と劇的交響曲「ロメオとジュリエット」（1839）とともに、ベルリオーズの初期標題交響曲の三部作をなしている点において、間違いなく交響曲である。一方で、イギリスの詩人バイロンによる長編詩『チャイルド・ハロルドの巡礼』に着想を得て、ヴィオラ独奏を主人公のチャイルド（中世の騎士候補の呼称）・ハロルドに見立てたこの音楽は、「聴く劇（または詩）」としても楽しめる。1830年に念願のローマ大賞を受賞したベルリオーズは、12月にパリで《幻想交響曲》を初演したのち、ローマに留学する。しかし約15ヶ月間の滞在中、作曲よりもイタリア各地を旅行し、その体験が「イタリアのハロルド」の作曲にもいかされた。

第1楽章「山にいるハロルド／憂愁、幸福と歓喜の場面」序奏（アダージョ）でヴィオラ独奏が奏でる「ハロルドの主題」は、全楽章を通じて現れる固定楽想。ハープの伴奏でヴィオラが歌う様はあたかも中世の騎士＝吟遊詩人のようだ。序奏ののち主部（アレグロ）が続く。**第2楽章「夕べの祈りを歌う巡礼の行進」**ベートーヴェンの交響曲第7番第2楽章や、後のワーグナー《タンホイザー》にも通じる、遠近法を伴った（カトリックの巡礼の）行進の描写。**第3楽章「アブルッチの山人が、その愛人に寄せるセレナード」**交響曲の舞曲楽章に相当する。イングリッシュホルン独奏が奏でる山人による民謡を用いたセレナードが風味を加える。**第4楽章「山賊の饗宴、先立つ場面の追想」**作曲家自身の《幻想交響曲》終楽章を想起させるような山賊の饗宴と、ハロルドの死が描かれ、前3楽章の主題が回想される。

安川智子 Text by YASUKAWA Tomoko

作曲：1834年

初演：1834年11月23日パリ音楽院コンサートホール、クレティアン・ユラン独奏、ナルシス・ジラール指揮、パリ音楽院コンサート協会管弦楽団

編成：独奏ヴィオラ、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2（イングリッシュホルン持替1）、クラリネット2、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、オフィクレイド1、ティンパニ、小太鼓、シンバル、トライアングル、ハープ、弦5部

酒井健治（1977〜）

ヴィオラ協奏曲「ヒストリア」

ヴィオラ協奏曲「ヒストリア」は「協奏曲」がもつ独奏楽器と伴奏という古典的な図式に留まらない、そこから演繹される表現の可能性を追求した作品である。また伝統的な音楽語法も再解釈されており、冒頭において本来内省的な楽器にもかかわらず激しいトレモロ奏法で奏され、結果現代的に聴こえるヴィオラ独奏の書法は、実際には4声体によるコラール書法を下敷きにしている。そして独奏から楽想が染み出し次第にオーケストラに波及する様は、先述の独奏と伴奏という関係性から脱却、そして再び元の関係性に回帰を繰り返したりするのである。それ以外にも音楽史上におけるそれぞれの時代を跨ぐ瞬間がいくつもあり、ドイツやフランス・ロマン派の和声進行が垣間見えたり、単純な和声から騒音的な表現へと漸化する様や微分音を含む自然倍音に基づいた平均律で構成されない和声など、多様な音楽語法が時代を超え交差するのである。様々な時代の様式が入り混じる中においても独奏ヴィオラが奏でる歌は超然としており、その様はまるで独奏楽器がタイムマシーンの様に音楽史を巡る旅をするのである。

この作品は2019年10月に広上淳一指揮京都市交響楽団、ソリストに同楽団首席奏者である小峰航一氏によって世界初演されたが、独奏ヴィオラのカデンツァの直前において管弦楽内のヴィオラ群によって独奏ヴィオラを導く瞬間があり、実際に京響のヴィオラセクションの団員達によって首席奏者の小峰氏を送り出すという、私が感じた彼らの結束を表現したものである。また小峰氏とは私のパリ国立高等音楽院時代より20年来の盟友であり、彼との協働作業の結果誕生したこの作品がこの度初演者達の手から離れ、サオ・スレーズ・ラリヴィエール氏、ジョナサン・ノット氏と東京交響楽団という素晴らしい演奏者たちによって迎えられる今回の機会を私自身とても楽しみにしている。

酒井健治 Text by SAKAI Kenji

作曲：1834年

初演：2019年10月20日京都、小峰航一独奏、広上淳一指揮、京都市交響楽団

編成：独奏ヴィオラ、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、グロッケンシュピール、木琴、シンバル、フレクサトーン、マリンバ、ウッドブロック、中太鼓、大太鼓、銅鑼、おりん、ハープ、弦5部［12・10・8・6・4］

5/17 FRI.

ジャック・イベール（1890 ～ 1962）

交響組曲「寄港地」

地中海の港町をめぐる旅情を管弦楽で表現した《寄港地》は、クロード・ドビュッシーの交響的スケッチ《海》（1905）などのフランス管弦楽の伝統に連なる、色彩豊かな標題音楽である。ミヨー、オネゲルらと共にパリ音楽院で学んだイベールは、第一次世界大戦時に志願して海軍士官となった。戦争が終わると作曲の勉強に戻り、戦争で中断していたローマ賞コンクールに応募して、戦後初めての大賞受賞者となった。《寄港地》は、大賞受賞者としてローマに留学する際に義務付けられている、ローマからの提出作品として作曲されたものである。海軍としての任務中には、作品に結びつくような航海はなされなかったが、ローマ大賞を受賞した直後にイベールは結婚し、ハネムーンとして地中海周遊の旅に出た。今日でもイベールの代表作に数えられるこの《寄港地》は、若く幸福な時代の果実である。

各曲には具体的な地名が記されることがあるが、これは編集者の求めに応じて、イベールが後から加えたものである。**第1曲「ローマ－パレルモ」**は、ローマを出発して、シチリア島のパレルモへと至る航海を描く。幻想的なフルート独奏からハープのグリッサンドへの流れは、ドビュッシーの《牧神の午後への前奏曲》を想起させる。トランペット独奏によるタランテラのリズムが現れると、舞台はパレルモへと移る。最後は幻想的な海の風景が回帰する。**第2曲「チュニス－ネフタ」**は、チュニジアの2つの都市である。楽器編成が弦5部とオーボエ、ティンパニのみに縮小され（最後の和音でフルートとハープが加わる）、オーボエが終始異国的旋律を奏でる。**第3曲「バレンシア」**はスペインの港町である。フランスにおけるスペイン趣味の作品は、ビゼー、サン＝サーンス、シャブリエ、ドビュッシー、ラヴェルと多くの前例がある。イベールはそうした先行作品を踏まえつつ、開放的な明るさで地中海の旅を締めくくる。

安川智子 Text by YASUKAWA Tomoko

作曲：1922年

初演：1924年1月6日、ポール・パレー（指揮）、コンセール・ラムルー管弦楽団

編成：ピッコロ1、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・テューバ1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、タンバリン、カスタネット、タムタム、トライアングル、シロフォン、ハープ2、チェレスタ、弦5部

Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

首席ヴィオラ青木篤子と

「イタリアのハロルド」

聴き手：林昌英（音楽ライター）

ベルリオーズ「イタリアのハロルド」のソリストを務める、東京交響楽団首席ヴィオラ奏者の青木篤子。2010年5月には前音楽監督ユベール・スダーンの指揮で同曲ソリストを務め、今回は現音楽監督ジョナサン・ノットの指揮で14年ぶりに臨む。ヴィオラ奏者にとって特別な存在である本作についてのほか、ノット監督や東響への思いなどを語ってもらった。

―2010年、当時の音楽監督のユベール・スダーンさんとの「イタリアのハロルド」はすばらしい演奏で、最後のパフォーマンスも強く印象に残っています。

東響で初めてソロを弾かせていただいたのがこの「イタリアのハロルド」でした。どんどんソロの出番が減っていく曲で、第4楽章になると10分近く弾かない時間があります。ストーリー的にも最後死んでしまうので、あの世から聞こえるような最後のフレーズはコントラバスの後ろで弾くのはどうでしょうとスダーンさんに提案をして、最後は倒れるようなお芝居もしました(笑)。今回改めて取り組むにあたっては、視覚的なことはせずに、譜面に書いてあることを素朴に再現したいと考えています。ベルリオーズの書いたスコアの奥行き、遠近感が本当にすばらしく、耳で聞くだけでシアターピースとして伝わるものと再認識しています。台本であれば主人公のセリフは少なく、最後はほぼ「……」になってしまうような内向的な曲で、難しいけどやりがいがあります。全体にはオーケストレーションが非常に素晴らしく、いろいろな風景を楽しめるのが魅力です。

―特に好きな場面はありますか？

私が一番好きな場面は、第2楽章の巡礼の場面の最後です。ここは「カント・レリジオーソ」（宗教的な歌）という指示があり、主人公は巡礼には加わらず傍観していますが、気持ちは共感していて、風が吹くようなアルペジオをスル・ポンティチェロ（駒寄りで弾くことで特殊な音色が出る奏法）で演奏します。第2楽章以降はもう依頼者のパガニーニを意識せずに、ベルリオーズが心の赴くままに書いていったかのようで、華やかな超絶技巧みたいなものが全然ないのです。本当に純

Symphony Lounge
［シンフォニー・ラウンジ］

首席ヴィオラ
青木篤子と「イタリアのハロルド」

粋な音楽ですし、室内楽を書くような感覚だったのかもしれません。

―今回の「イタリアのハロルド」は、ほとんどベルリオーズを取り上げてこなかったノット監督からの提案だったそうですね。しかもヴィオラのソリストが2人で、青木さんがフランスのベルリオーズ、フランス人のサオ・スレーズ・ラリヴィエールが酒井健治作品という、かなりレアなプログラム。

ノット監督の提案でこの曲をやると知ったとき、「ドッキリ？！」というくらい驚きました（笑）。ラリヴィエールさんとお会いするのは初めてで、とても楽しみです。酒井健治さんはフランスで学ばれた方で、ノットさんは「日本とフランスの架け橋がいくつもあるプログラム」と語っていたそうです。ヴィオラが2人も出てきて……と思われそうですが（笑）、この楽器は本当に一人ひとりが違う音色をもっていますし、全然違う音響世界を楽しんでいただけると思います。

―ノット監督はどのような存在でしょうか？

サウンドもフレージングも、いかに音楽を自然な状態に近づけていくかということを大切にされています。彼は協奏曲であっても全員で作り上げる意識で、絶妙なバランス感覚でオーケストラを背景に回さないのです。

以前ノット監督の指揮で「ドン・キホーテ」でヴィオラ・ソロを務めたとき、サンチョ・パンサの語りのようなソロが結構難しいのですが、最初のリハーサルで私のソロを聴いて「一回、私が振るみたいに弾いてみて？」と軽い感じで（笑）一度だけ振ってくれて、それを見ながら弾いたら楽器の都合も忘れて、ごく自然なオペラのレチタティーヴォみたいな演奏になったのです。自分が一番驚いたほどの忘れられない体験ですが、そういう魔法をオーケストラ全体にもかけられる人なのです。

ノットさんとの仕事は本当に楽しいです。誰もいない山に咲く小さい花を守るような作業を音楽家はしなきゃいけない、ピュアな気持ちを保ち続けたい、と考えているのですが、彼は率先してそれをできる温かい人で、深く尊敬しています。

―東響はどんなオーケストラですか？

いい意味でなんでもやるオーケストラで、みんな自分の得意分野をいつでも発揮できて、とても柔軟。“オーケストラは大きな室内楽”といわれますが、そういう親密な対話ができていると思います。あと、私は関西弁しか喋れませんが（笑）、音楽を通せば言語は関係なく、言葉を超越したしたすばらしいコミュニケーションができることも実感しています。常に新鮮な気持ちになれますし、音楽ってすごいなと日々感じています。

Together With TSO
for Music Lovers
東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。
＊新会員の方です。ありがとうございました（4月19日現在。五十音順）。

ご 芳 名（敬称略）

法 人 会 員

プラチナ会員
株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員
有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員
株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社

シルバー会員
株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員
アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八　別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フイルムビジネス
　イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業
東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO
for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

ご 芳 名（敬称略）

個 人 会 員

サークル50

磯村　文靖
伊藤　晴美
伊藤　美樹
沖田　陽子
鴛海　量明
木暮　紀子
澤田　秀雄
清水　尚彦
杉山　啓次
長瀬　雅則
山口　積恵
山口　知子☆
山口　学
横川　端
匿名３名

☆名誉パトロン

サークル25

石川　晴依世
猪田　隆文
井上　孝昭
岡野　一哉
加藤　英輔
後藤　実
鈴木　信恵
手塚　和彦
戸川　二郎
平山　智史
山本　誠一郎
匿名３名

サークル10

天野　佳和
新井　祥一
荒木　陽子
五十嵐　建平
井澤　菜緒子
稲田　めぐみ
岩田　新
内山　誠彦
梅沢　麻衣
遠藤　秀和
大内田　由紀子
大城　明幹
大島　肇
太田　純子
大塚　具幸
大場　潤一
大類　浩
岡　邦子
片山　泰輔
金山　尚弘
金田　好生
木賀　賢市
菊池　光剛
木内　正則・道子
小林　光
古丸　健
近藤　和喜夫
斎藤　脩司
佐々木　真
佐藤　大助
佐野　利勝
渋佐　慎吾
清水　幹雄
白井　恭一
高澤　美貴子
高田　光官
高津　麻子
髙野　幸一
高橋　佐智子
高畠　琢己
高家　正行
田口　之博
竹田　忍
田中　建一
谷川　啓
谷藤　明雄
千葉　清
角田　隆・直子
中澤　守正
中村　豊
成瀬　倉祥
西谷　公男
橋本　純一
早川　正希
原田　美保子
アーネスト M. 比嘉
平川　尚義・暢子
枇杷　高志
古庄　忠雄
正水　和久
増岡　聡一郎
*真野　美千代
三浦　麻子
水越　睦美
満田　高久
三橋　祐太
峯岸　恭博
村本　信幸・京子
森　京子
森口　健
森口　優子
森下　国彦
八鍬　昭
山上　典彦
山口　重雄
山本　明
吉井　久美子
吉村　美恵子
米岡　修一
匿名 15 名

フレンズ5

東　恭代
有江　純子
石原　祥子
井上　健
潮田　伊織
大石　直輝
大川　朋彦
大野　紀子
奥秋　和彦
河野　愛
小林　義彦
斉藤　潤
佐藤　信一郎
佐藤　利孝
塩澤　誠司
高際　比呂志
寺西　基之
中島　信男
長谷川　泰弘
早川　利郎
松信　正志
山口　聡
山田　修造
山本　喜良
吉田　哲四郎
和久井　良輔
匿名２名

フレンズ3

青木　眞輝
秋山　真一郎
明田　重樹
荒　洋一
有坂　あかり
池田　一彰
石澤　卓志
井上　聡
岩瀬　正明
臼居　正昭
梅本　千枝子
大川　剛
大北　元
大崎　純
大津　透
大塚　啓一
大埜　展男
大橋　昌資
小川　康恭
奥瀬　篤
奥田　桂子
小澤　俊文
尾島　夕里
小田切　明子
皆瀬　修
加藤　由美子
兼子　伸彦
狩野　裕基
川村　純一郎
菊池　綾
北川　洋
木下　盛弘
木村　幸男
久保田　一穂
倉谷　宏樹
小木曽　孝
古杉　絢
小山　忠司
佐藤　悦子
佐藤　香
佐藤　健司
芝崎　有男
清水　良枝
杉田　弘也
鈴木　いく子
鈴木　忠明
須田　眞理子
関根　三善
髙石　祐次
竹内　あゆみ
田中　美貴子
谷原　万紀
都築　豊
直井　富士春
中村　元嗣
中村　幸雄
長瀬　利明
西田　尚弘
根本　直之
根本　暢明
野口　敏嗣
早川　克己
林　美奈子
春川　京子
春山　典応
福田　昭夫
福田　純子
藤田　栄
藤田　智雄
藤田　淑子
藤野　盾臣
藤森　朗
舟橋　光代
星　直樹
松下　一彦
三橋　正典
村田　拓郎
安江　美穂
山田　敏之
山中　喜義
山之内　英明
鎗水　みお
横尾　順
吉原　美紗恵
匿名 35 名

フレンズ1

■あ
相磯　浩
青野　寛道
赤塚　節恵
秋元　淳志
秋本　大士
浅里　文男
安達　郁夫
阿部　浩子
阿部　靖彦
阿部　百合子
井草　公仁
池田　利昭
石井　有希子
石川　由紀
磯村　幸一郎
板橋　恵子
井手　泰宏
伊藤　勉
伊藤　晴子
伊藤　宗功
伊藤　力雄
稲葉　順一
井上　康子
猪瀬　正
今井田　邦男
今宮　美知子
今村　知子
今村　裕
岩澤　淳子
岩澤　成吉
岩瀬　順子
岩田　由紀
岩野　裕一
上田　洋子
潮田　一成
内海　重男
内川　真名子
内田　誠
内山　さゆり
宇野　正芳
梅崎　耕司
梅田　和秀
瓜生　こずえ
大嶋　孝義
大島　正
大島　初彦
大島　康彦
太田　ルミ子
大塚　賀久
大友　英司
大西　佳子
大貫　由香
大畑　喜信
大場　久恵
大森　幸吉
大八木　節子
岡田　美穂
岡野　明徳
岡村　兵衛
小川　幾子
小川　弘晋
小川　安江
沖　知子
奥秋　和歌子
奥田　由美子
奥貫　壮史
*奥村　克彦
小倉　ヒロ・ミヒャエル
生島　靖雄
小名　雅恵
小野　信也
小野　哲也
小野塚　純二
*小畑　嘉丈
小船井　美穂
■か
甲斐　幸士
海藤　慶子
柿沼　威司
柏木　仁
方波見　和雄
片山　千栄
葛城　伸一
加藤　憲司
加藤　里加子
金元　妙子
川口　善行
川野　安子

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

＊新会員の方です。ありがとうございました（4月19日現在。五十音順）。

川之上　裕美子
菅野　広和
菊田　海
菊池　伸治
菊池　正信
北野　雅子
北村　眞
木下　泰子
木下　亮平
貴布根　弘篤
木村　好一
木村　強
木村　富士子
木村　美智子
京増　純芽
久保田　伸一
栗原　潔
黒野　美穂子
玄間　美幸
小泉　徹
小泉　博
好士崎　稔子
河野　太
高山　美恵子
国府　里美
国府　保周
小坂部　惠子
古平　一雄
小西　淳
小林　恭二
小林　宏州
小林　浩
近藤　諒弥
近内　光一
近内　友吏子
後藤田　裕二

■さ
齊木　一宏
齊藤　ひろ子
齋藤　博
齋藤　将隆
齊藤　有司
酒井　典子
坂本　タカ子
坂本　宗男
前刀　禎明
佐々木　紀明
佐々木　通博
佐藤　圭子
佐藤　謙
佐藤　幸子
佐藤　勝
佐藤　孜
佐藤　深雪
佐藤　美和子
佐藤　由紀子
重成　瞳
茂野　俊郎
重松　恒夫
宍戸　雅之
篠田　一朗
柴崎　晴雄
柴橋　俊也
渋川　朋子
嶋谷　宏明
清水　恵美子
清水　重夫
志村　崇
下田　和代
庄司　一彦
白石　大
城本　幸代
菅澤　和美
菅原　昌代
椙原　あやめ
杉山　啓次
杉山　重明
杉山　慎二
洲合　明子
鈴木　啓介
鈴木　孝治
鈴木　美和
諏訪　幸恵
清木　達
清木　穂名美
關　翔太
関　洋
関口　あずみ

■た
高石　亜希子
高木　敏和
髙木　晴彦
高坂　麻由子
鷹司　主計
高津戸　知也
高野　洋二
高橋　勝弥
高橋　美穂
高橋　有一
高橋　ユリコ
高松　則雄
高森　幸男
竹内　昭
竹内　聖子
竹内　真也
竹内　みお
武尾　和彦
竹腰　正隆
竹下　裕行
武田　和大
忠内　幹昌
多田　泰三
立野　由紀子
田中　敬子
田邊　禎二
谷川　浩司
谷川　由香
谷崎　小百合
種田　守
玉井　正浩
千田　晴久
塚田　和男
築館　玲子
津久井　淳
辻　直浩
坪井　洋一
寺澤　佳代
寺田　治男
遠山　淳夫
登原　明史
冨田　博之
鳥居　順子
鳥居　夕紀夫

■な
中神　朋子
中沢　忠
中村　紀美子
永井　洋一
長岡　秀成
永田　郁子
長野　冨貴子
成合　明子
新倉　啓介
西岡　直実
西岡　昌紀
西川　晶
西川　陽子
西中川　淑子
西村　淳夫
西村　真
西山　英昭
野口　信弘
野口　誠
野口　真有美
野村　一成
野村　真澄

■は
橋爪　千鶴子
橋本　和雄
橋本　一史
橋本　憲人
長谷川　京介
長谷川　博
波多　ミサエ
早川　明男
林　博子
林原　和宏
原　ひとみ
原口　岳士
原田　慶子
坂東　泰子
樋口　實
肥後　恵子
廣瀬　泰文
廣中　直行
深沢　茂実
藤田　獻
古市　雄二
古澤　美樹
古野　仁
堀田　典秀
堀　浩史
堀川　信子

■ま
前田　泉
牧口　光郎
幕田　正司
桝井　明
松岡　秀樹
松尾　淳一
松崎　圭子
松澤　聡
松下　泰之
松本　繁
松本　俊郎
松本　敏子
圓尾　雅則
丸山　雅子
水口　敏也
水谷　哲男
水野　弘
水谷　晴彦
三田　純子
峯邑　尚子
宮川　悦子
三宅　雅之
宮坂　健司
宮崎　靖子
宮島　朋子
宮寺　昇
宮本　好江
村上　誠司
村瀬　正子
室田　善弘
森　里美
森島　政和
諸岡　喧子

■や
柳沼　美智子
安富　康男
柳　雅一
柳本　友幸
矢野　和代
山内　隆幸
山縣　裕児
山岸　勇一郎
山口　政継
山田　昌克
山田　美生子
山田　義則
山本　博
湯川　俊明
横山　尚洋
＊吉岡　真紀子
吉富　美紀
吉野　民子
吉見　幸子
米田　徹
米田　光
米谷　克幸

■わ
若田部　矩弘
若槻　不二夫
渡邊　朋子
C.S.
N.S.
T.Saito
匿名 138 名

■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付（敬称略）

鈴木　久子
竹内　容子
齊藤公治メモリアル基金
牧野　季子
岡橋　純男
岡橋　孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社

特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただき、当団主催公演の入場券を5%引き（TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い分のみ）にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋　優
伊藤　智志
関根　三善
中條　幸子
森山　雅一郎
匿名 8 名
（敬称略）

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター044-520-1511へお電話でお願いいたします。

Together With TSO
for Music Lovers
東京交響楽団サポート会員

＜東京交響楽団サポート会員制度＞

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングよる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。
そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ち申し上げております。

個人会員

- フレンズ1　年額1万円～29,999円
- フレンズ3　年額3万円～49,999円
- フレンズ5　年額5万円～99,999円
- サークル10　年額10万円～249,999円
- サークル25　年額25万円～499,999円
- サークル50　年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

- ブロンズ　年額10万円～
- シルバー　年額30万円～
- ゴールド　年額50万円～
- ダイヤモンド　年額100万円～
- プラチナ　年額1000万円～

会員特典　詳細はHP、又はお電話でお問合せ下さい	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会（年3回以上）	○	○	○	○	
リハーサル見学会（年3回以上）	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 *1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 *2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミューザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。
◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金（所得税・個人住民税）を控除されます。
　また相続税にも控除が適用されます。
◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*3
*3但し、各該当法令で定められた限度があります。
その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会（ご寄付）いただけます。
http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html

サポート会員へのご入会・お問合せ
公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部
TEL 044-520-1518
E-mail　supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians 楽団員紹介

フランスの風を吹かせるヴァイオリニスト

加藤 まな

KATO Mana

［第2ヴァイオリン・フォアシュピーラー］2012年4月入団

趣味：ソニーのミラーレスカメラを持って、写真を撮りに出かけること。

©N.Ikegami

姉とともに、イヴリー・ギトリスを追いかけて

趣味でヴァイオリンを弾いていた父と、既に習っていた姉の影響で、3歳半ではじめてヴァイオリンに触れました。その後も、姉の背中を追いかける形で、練習に励んでいました。ずっと好きだったイヴリーが来日した際にヴァイオリンを聴いていただく機会があり、その後もフランスの講習会や彼の来日の際に度々会いに行くうちに、「フランスにおいで」と言ってくださったことをきっかけに、自然と海外留学が視野に入るようになりました。

私のヴァイオリン生活には、3歳年上の姉の存在がとても大きかったように感じます。姉が藝大附属高への入学が決まった時、私も当然そこに行くんだと思っていましたし、姉が高校卒業後に渡仏した時も、私も続くのだと当たり前に思っていました。海外留学に不安がなかったのは、父の仕事の都合で、小学5〜6年生にかけてウィーンで暮らした経験があったからかもしれません。

日本に戻って感じた空気感

高校卒業後に渡仏して、フランスで12年半暮らしました。転機はフランスで出会った夫と日本を旅行したこと。夫が「日本大好き！日本に住んでみたい！」と言い出したことがきっかけで、東京交響楽団のオーディションを受けました。

私はフランスでの生活が長かったので、当時は日本の時間の進み方がとても早く、常に人が急いでいるように感じていました。最初は「この環境でどうやって音楽をしよう」と、適応するのに時間がかかっていました。ノット監督は東響からフランスの色を引き出し、ヨーロッパの空気や言語が生みだす雰囲気を音で見せてくれるように感じています。

12歳のとき。左から父、イヴリー、姉、私。

インタビュー：事務局

NEWS & TOPICS

楽団人事　5月20日付

坂井みどり SAKAI Midori
［首席第2ヴァイオリン奏者］

2002年に入団し、22年にわたり活躍しました。再雇用契約にて、第2ヴァイオリン奏者として活動いたします。

東京交響楽団
オリジナルクリアファイルを発売

2021年より販売しているクリアファイルにつづき、モノクロ・オーケストラ楽器シリーズとして、新たに2種類のファイルを発売いたしました。
東響SHOPにてお求めいただけます。

2枚組600円（税込）

NEXT PROGRAM

あの社会現象から早くも30年。今こそ聴くべき名曲「悲歌のシンフォニー」

6/1（土） 東京オペラシティシリーズ 第139回
14:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮：沼尻竜典
ピアノ：エリック・ルー
ソプラノ：砂川涼子
ショパン：ピアノ協奏曲 第2番
グレツキ：交響曲 第3番
「悲歌のシンフォニー」

S¥7,500　A¥6,500　B¥4,000　C¥3,500

その指揮者、マトヴィエンコ。日本デビュー！

6/15（土） 第721回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

16（日） 新潟定期演奏会第136回
17:00りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

指揮：ドミトリー・マトヴィエンコ
ラヴェル：道化師の朝の歌（管弦楽版）―鏡より
ラヴェル：組曲「マ・メール・ロワ」
ストラヴィンスキー：バレエ音楽「ペトルーシュカ」
（1947年版）（ピアノ：高橋優介）

[6/15] S¥8,500　A¥6,500　B¥5,500　C¥4,500　P¥3,000
[6/16] S¥7,500　A¥6,000　B¥4,500　C¥3,000　D¥2,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511（平日10:00 ～ 18:00 ／土日祝休）
りゅーとぴあチケット専用ダイヤル025-224-5521（11:00 ～ 19:00 ／休館日除く）

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト https://tokyosymphony.jp

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」では2022年に《サロメ》が第2位、23年には《エレクトラ》が第1位に選出された。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world.“Elektra in Concert Style(2023”won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of “Salome in Concert Style(2022)”on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra’ s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.
Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO’ s home and Mozart’ s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.
Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート
【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】

NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団

音楽・動画配信サイト
「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円（税込）

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE
Symphony

Symphony 2024年（令和6年）5月号［非売品］
発　行　公益財団法人東京交響楽団　〒169-0073　東京都新宿区百人町2-23-5　TEL 03-3362-6764
＜川崎オフィス＞　〒212-8554　神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミューザ川崎セントラルタワー 5階　TEL 044-520-1518

Art Direction & Design：Be.To Bears　印刷：NHKビジネスクリエイト